

昭和三十一年七月二十三日招集

第四回市議會臨時會々議錄

昭和三十八年館山市議会第四回臨時会々議録

昭和三十八年七月招集

一七月二十三日(火曜日)

一現在議員三十六名でその氏名次の通り、

一	番	吉田勇治郎	二	番	鈴木正一郎
三	番	小柴孝	四	番	館石伝蔵
五	番	田中祿郎	六	番	秋山大三郎
七	番	田村源治郎	八	番	望月照正
九	番	安西益男	一〇	番	辻田実
一	番	石井正	一	二番	黒川佐太郎
一	三番	菊井敏博	一	四番	志村信作
一	五番	小沢憲太郎	一	六番	関武夫
一	七番	飯田義男	一	八番	西村実次
一	九番	藤田好治	二	〇番	保科忠次

二一番	江田徳太郎	二二番	君塚喜三
二三番	中村省吾	二四番	島野茂樹郎
二五番	萩生田七郎	二六番	鈴木孝
二七番	嶋田繁	二八番	山田教子
二九番	鈴木市蔵	三〇番	安藤竜吉
三一番	安沢徳順	三二番	三沢節
三三番	高橋文治	三四番	山本昇
三五番	松本藤太郎	三六番	山口康

一 議事日程

第一 議案才八十二号 館山市勢振興調査委託契約の締結と

第二 議案才八十三号 館山市助役選任につき議令同意を求め

について

第三 議案才八十四号 千葉県市町村取組員退取手当組合へ

加入によるそ及納付金納入について

第四 農業才八五号

農業委員会より委員とらるべき厚誠経

験者より推薦について

第五 請願書

一 法律百二十一条による出席説明員

市長

本間

穰

総務課長

山口

実

秘書課長

小倉

澄男

農産統計課長

伊藤 幸太郎

企画室長

谷 貝茂生

一本議会の事務局長、事務局長補佐、書記及び職員

事務局長

高 梨清一

事務局長

太 田博雄

書記

矢 藤恭一

職員

錦 織睦子

一出席議員

三五名

一欠席議員

一名

午後五時三十分

閉議

議長(黒川佐太郎君)本日、出席議員数 三四名、

こより、才四回市議会臨時会を開会いたします。

本臨時会の議案説明のため本間市長、山口課長

小倉課長、伊藤課長、谷見室長以上の出席を求

めまうので、報告いたします。

会議録署名員の決定を行ないます。

本臨時会の会議録署名員に三番議員、小柴孝君

三四番議員、山本昇君以上両君を指名いたします。

これにて、異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)や異議なしと認めます。よって以上

の通り決まりました。

会期を決定を行ないます。

本臨時会の会期につき、議会運営協議会の意見

は本日一日ということであります。

おはかりいたします。

会期を一日と定めますことにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)や異議なしと認めます。よって
会期は一日と決定いたしました。

本日、議事はお手元に配付の日程表により行ないます。
まず、市長よりこゝ際、市長より本臨時会招集の経
明を求めます。

こゝ際おはかりいたします。会議の定刻も迫りま
すので時間の延長をいたさないと思ひます。

こゝにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)や異議なしと認めます。よって時間は

延長されました。

(市長・本町議君登壇)

市長(本町議君)市挨拶申し上げます。市々忙し中を
本日館山市議会臨時会を招集いたしました。恐縮に存じ
ますが、当面急を要する事件が二三ございます。そ
う皆さう方に市参集の儀をわすらうた次才でござ
います。

本日上程いたします議案は、かねて昭和三八年度に実
施計画を樹立し、つかりました館山市勢振興調査
委託契約の締結について、また八月末で任期満了と
なり、ます館山市助役の選任につきまゝ、議会の同
意を得たいのであります。

その他、議会に市推薦方をお願いいたします。農業委
員会の委員とすべき農業委員会等に關する法

律才一ニ条の規定によります。学識経験者の推薦
をお願いするわけですが、詳細につきましてもは
関係課長より、その旨を説明申し上げますので、な
にとぞよろしく御審議をお願いいたします。

なお追加付議事件といたしまして、上程いたしますも
つは、千葉県市町村取組退取組合に加入いたし
ました。その納付金の納入についてであります。こ
れは予算外支出を求めたいと思っております。よろ
しく御審議願いたいと思っております。

議長(黒川佐太郎君) 日程才一・議案才八二号を上程
いたします。

(書記朗読)

議案才八二号

館山市勢振興調査委託契約の

締結について

企画室長(谷貝茂生君) 議案オハニ号につきよろこびて説明
申し上げます。

本年度当初予算で一応予算の方はお願いいたしまして
今回館山市勢振興調査の委託契約を全国市長会
研究室長幸島礼吉氏と契約金額八十万円で隨意
契約をお願いしようというものでございます。

市勢振興調査につきよろこびての趣旨といえしよろこびては、
皆さう承知かと思ひますが、当市は新市建設促進
法に基づきまして昭和三五年に基本計画と実施計
画を立てまして、今までのいろいろな事業を実施して参
りまして、この計画もあと二カ年で一応終了というところ
であります。この基本計画と実施計画は当時国
庫の補助金等の関係等もありましたこととそれから
非常に指定を受けるために期間をせばめられたため

にどうしても計画を短期間のうちに作らなければならぬという無理があつたということと経済成長下に
おきまして最近基本的な問題に変更を見なくては
ならないような事態に迫られてゐる。国、県、市、施
策もわかつて参りましたので、市、県、市のよう
に基本計画を年々変更をお願いしながら実施して参りま
したが、あと二カ年で一応この計画が切れるとい
うことで、地方行政というものがよくても市民福祉と生活水準
の向上にあるということとを考えたときに市の事業
もよくても効率的に実施していかなければならぬ
そのためには一つの基本線をもとにして、年次約
に計画を進めていく必要があろうかと思ひます。

そういう面から二カ年で切らうとております。年次計画を新たに一応検討を加えて一つの方角を生み

出ていく必要があるということを考えてこゝに計画の必要に迫らるわけでございますけれども特に最近所得倍増とか、地域格差の問題等もありまして、当館山市が全国県下におきましても、市民所得が非常に低い位置にあるということから、強力に経済振興策を打ち出していくかなければならぬという事情にも迫らるておるわけでございます。

市政知のように才一次産業が非常に大きな比率を占めておりまして所得を増大する面から考えれば才一次より才二次、才二次より才三次というふうに切りかえていくことが一番速い問題ではあります。現在澤んております才一次産業としましては非常に市にとりましては、重要な産業でございます。こゝでよくまでも、こゝは、強かに進めていかなければ

はひらないうことから、この施策というところにつき
ましても、慎重を来さなければならないうこと
は申し上げるまでもございせん。

そういった意味から、市とローマ特に京葉工業地
帯、ように一つの重点施策と工業に持っていくの
だという強力なものがあるば別でございすが、農業
も商業も漁業も各々重要性がございローマ一つ
う重点施策というものの打ち出しにくい点もあるわけ
でございますので、一応各部門にまたがりローマ専ら家
に各産業の関連的な問題、また多角的に検討を
加えていただきローマ才三者の立場から、熊本市の
状況を検討を加えた結果をまとめローマ一つの技
本的な重点施策というものをきつめていきたいと思います
いうことから、この調査をお願いしようとするものでござ

います。

この委託人につきましては、全国市長会研究室長、
幸島礼吉ということになっておりますが、市勢相談
ということから、従来は全国市長会が直接市長会
の会としてこの調査の委託を受けておりました。
けれども、ある市におきまして、経済成長の激しい
ときに委託を受けてその結果が非常に長くかか
って、よって非常に被害をこうもったという点があ
ります。と、全国市長会でも市勢相談を受け
る場合には特別委員として顧問的な立場の先生
方を委嘱しておるそうでございますが、市勢相談を
受けますと、その顧問の方々に相談をかけて、その方々
にやっていたといたうことになり、よすると、非常に多く
かかるということと、右々顧問の方々は、それだけの

仕事を持っておりまして、そのため、調査が早く終
つても他、部内では遅れるということでもとりまよめ
ということになりますと、非常に期間が長くかかる。
経費がかかるということと、いろいろお願いしました
結果、市長会としては受けにくいということと、研究
室の室長さんにもお願いいたしまして、室長さんから
各大学、それから専門家の先生方を選んで
いただくまで、一つの調査団を編成していただくまし
て、その代表である市長会、研究室長ということとで
一応構想はつくってございます。

それから、契約金額八十万とになっておりますが、一つの部
内について旧来から十、二十万ということになっており
まして、全国市長会で受けておった当時は一、二部内
十、二十万、そのまゝ先生の謝礼に充てて、現地に

くる場合の旅費・宿泊費というものをその市が別に持
ったということがあり、ますために経費が相当かかった。
今回は一部の十万ということは、その十万で先生方の
旅費・宿泊費・そういうものは持っていたにきまゝで現
地でもって調査する費用だけは現地で持つという
ことで一応お話を願いました。ようなか次第でございます。
八部分と申しますのは、観光部分、農業部分、商業
部分、工業水産部分、生活圏部分、金融部分、都
市計画部分、総括ということでは八部分の先生を
願います。その調査団をもってやっていただくということ
で話を進めておるわけでございます。で、どうかこの
契約にきまゝで格別な学費成を願います。とい
うわけでございます。以上でございます。

一々番（辻田実君）三つの点について質問いたしたいのです。

が、期間について、説明がございまして、でしただけいども、いつ頃からどの程度、規模でどのような期間をもつて実施するかという点について一つお伺いしたいわけです。

それから先ほど説明の中におきまして私は二つの点について、非常に疑問を持ったという方は、釧路市において、市の方針として重点施策がないうでということをお伺いしております。

京葉工業地帯とか、こういうような施策はないので、こういうような面を調査機関の中で克服していくかなければならぬという説明があったことと、それに関連して、各課目別にオ三者に依頼して、そろそろ調査してもらおうということが、基本になつて、新市基本計画並びに実施計画書の二年間を有効に使う。

たい。こういうような経緯があったの如どうぬ。その点についてお伺いしたい。その点についてそういうことは全くなく、熊山市にはいいものがないかということに依頼するようになるかと。やはり依頼する前に置いて我々が審議しなければならぬこともある。まだつかやらないけれども、仕事が残っているのではないかと。いうことを非常に懸念するわけであらう。ましてそういう点から以上の点についてやり質問したいわけでございます。

企画室長(谷貝茂生君)お答えいたします。期間でございますが、大体委託する側といたしまして、各大学、先生方でございますが、もちろん仕事を持っておりますが、私たちが考えたいしましては、議会の協賛をいただきます。直ちに調査の方を実施して

いたゞくようにお願いいたしまして、できますならば、
本年末までに何とか調査を完了していただくように
お願いいたします。と申し上げますのは、この調査の結果によ
りまして、その施策というものに参考になります。点が
多く出てきた場合には、一年でも早く、そういう重点施策
というものは、実施する必要があるということから、来年度
予算にも多少でも、それが反映できるのではないかとい
う意味から、でございますならば、本年末までに完了する
ように希望しておるわけでございますが、それを受ける
側々仕事の関係、その他もござりますので、おそくとも
三月までには、済ましていただくように交渉する予定でござ
います。なお、この八先生の方に調査をお願いする
ことになりましたが、その内容につきましても、先生方が
一応参りまして、現在、市役所、内部にあります、いろ

いろいろ資料統計、或いは商工会議所、その他、各
 団体にあります資料、こういったものを、十分確認
 いたしまして、これから、新しく始める調査にむくわけ
 でございまして、もつとも、市勢振興という面から、行政
 区にとらわねずに、調査の内容からつきまわしては、例えば、
 商業部庁を考えたときに、市庁行政区内ばかりでな
 く、その背後地の経済圏として、鎌山市の背後地と
 して含まれておる点等も一応含んで調査する必要
 も起きてくるという点もありますので、その規模につ
 きまわしては、各部庁ごとに違いますので、それは先生
 方と一応打ち合わせてからでないと、その範囲という
 ものが、はつきりして今のところ申し上げると思うの
 であります。

なお、才二点の重点施策云々というお話でございまして、

もちろん今までの基本計画と年々実施して参りましたその計画の中に一応はつきりと一つの方針というものが打ち出されて事業として実施して参りました。高度な経済振興策という面からの点につきましても、もう少し検討を加える余地があるのではないか。事業の内容にもなりますけれども、結局いかにして経費を効率的に仕事を進めていくべきかという点につきましてもさらに今までの方針もございましてけれども、それに検討を加える必要が起きてくるのではないだろうか。またオス三者の立場から一応市勢の内容をひがめていたございましてために身近な問題としては、気が付かなかつたけれども、非常に重要な点が出ておつたという場合もオス三者の立場からひがめれば、そういうことも考えらるわけでございます。

し、また各都市におきまして、こういった調査をたいぶ実施して参りましたが、その結果をながめまして、その市は、業外気が付かぬ点で重大な施策というものを、診断の結果、つかむことができて、市制政の上に相当プラスになつてゐる。今までも調査いたしまして、各市の状況もございますけれども、相当効果も上げてゐるという点から、内部の立場から、やはり指摘の点もございますけれども、やはり立場がかわつてゐるから、なげめな場合に、その立場に立つて気が付かない面も重要施策として相当考えらるる面も起きてきつてゐる。かという点等も考えらるるわけでございます。

なお、先ほど申し上げました八部門の中には、その方向、果等の指導や補助施策いろんな面から進行方向というものが、ある程度打ち出されてすでに実施

しつつありますが、経済振興をはかる面から考えれば、場合に総合的に一つの重点施策を振るためには、やはり各部門の内容とある程度突込んで検討して見なければ最終的なものはまとまっていけない。

そういうことから各部門ごとに相当いろんな事業も進んでおりますけれども、総合的な面で重点施策を打ち出すためには各部門を検討してその上で総合的なものをつかみ出すということから、一応必要部門として八部門を上げたいでございます。各部門がそれだけ進んでいないということですが、総合的なものをつかみ出すために各部門を見ていただくということとでお願いしたいわけでございます。

考え方として、本市は近隣農漁村の中に都市として発展して参りまして、地域の産業は要令細

は農業が多い。そうして経済の発展を他区域に比
較すると著しく遅れておるのではないだろうか。
三四年の市民所得の調査をやりまゝの数字から
見るとこの前村田議員も質疑さへまゝにように
所得は県の最低であるのだということから、一かも
年々所得の高いところに流いつつある人口というも
のを考えた場合に館山市は現実の次女として年々
人口が減つてつづつある。こうした場合で各産業の振興
を強力に推進して人口収容力を高めたいというこ
とは、けだし本市の切実なる念願ではなからうかと
考えます。

従つて科学的に調査した上で才三君の人口専攻
的立場から検討を加えていただいてその結果をも
とにして参考にして将来の青写真というものの資料

として活用していただくのが最良の道」ということで申し上げ
たわけでございます。

・一々番(辻田実君)大まかな点についてはいりやりましたか、
根本的なものについて私はそういう形でやるべきことは
いいが、その前に市は市としてやるべきことがあるのでは
ないか。基本計画、実施計画書、を基本としてその
上に五つて十かた検討を加える、重点施策というも
のを出して大章にするべきではないか。でなければならな
りに都市計画委員会、さらに議会において検討し、之
についていかにいふと、今言ったことは他方本願的な面が
非常に強いわけですよ。

従いまして、私はそういうような形の中でもって議会の
承認を得るということになってきますと、全く館山市
は施策もなければ何もない。よな良の答弁の中から

認める結果になる。

私も、そういう面で調査ということも依頼してやりま
たが、農業の改革ということについて、調査していな
ださまうたけれども、その問題について非常によく
実態を把握して論議して、こういう問題にどんなに
しよというということで、調査員に対していたなか
ない、表面的にお世辞をいってやつておきますが、こ
ういう実態の中で一つ、館山市に方法はなにかという
ことについては、私は問題があるというふうに思う。
そういう点についてはもう少し、執行部で今まで申
しましなような今まで歩いてきたけれども、そういう
ものについてやはり十分まとめて議会に提案した
上に、おいてその上に立つてこういう問題について一つ
オ三者の判断をあらわさたい。こういうふうにあるべきだ

そういう面については、まだまだ不十分だ。その点について
もう一度お伺いしたい。

それから、調査の依頼については、大学の先生に依頼
するということになっておりますが、大学の先生は私
業を持つておられ、此の中において、私に配一たよう
な形でもって具体的なものはない。白紙委任の形で
もって、熊本市の将来を決定することを委任する。
一年間なり移住一々調査するということとは不可能だ。
そういうことであり、いい成果が上らぬと思う。

こういうふうに思う。これは専門委員という形でも
って一月・二月・走着一々熊本市五万数千の人口
親身になって生活はどうしたらいいかということでも
やってくればいざ知らず、一日・二日泊つてこういう資料
はないかという中でそこから結論を出さねえとい

う形でやそいくことにはあまり市当局として、責任
がないのではないかと、いうふうに思いますが、この点に
ついて再度伺いたいわけでございます。

企画室長(谷貝茂生君) 当市におきます重点施策
と申しますが、事業うことにつきましても、一応新市建
設促進法に基きまして、すでに五カ年間の事業は、一応
まわらへておるわけでございます。これはもちろん国
果つ了解も得、議会も得、或いは釧路市
の条例に基いて審議委員会の了解も得、一つの
方針として打ち出さるわけでございますが、こ
は、先日も申し上げましたように、いわゆる作った当
時と比較いたしまして、非常に経済成長というもの
は、急激に進むに行われたということから、大分基本的
な計画にもずれてきておるということ、果ては国の方

針というものが、事業計画につきましても大分かわり
つつあるということから、根本的に今の行ないつつあり
ます実施計画にも現実に即した事業ということ
になりますと、相当修正を加えていかなければなら
ないということから、年々計画変更を、承認願ひ
ながら、事業を実施してゐるわけでございます。

もちろんこの事業は、二カ年先のものまでは、一応根本
的にかめられております。それでやるということにな
つておりますが、やはり市民の要望にこたえて現状に
即して調整をしながらやっていくといういさかでござ
いますので、方針がないということではございませ
ん。ただ、そこで市庁立場でもつていろんな計画というもの
を作つて、他からう診断とかは、よくまでも参考に
する、という考え方は、もっともでございますが、市の立

場で依りますとき、各部分ごとにおののろんな計画を持つわけでございます。従いまして、経済効果を上げるために重点事業はどくに置かぬ、ということになります。その計画を取りまとめたとき、各部分ごとにおののろんな必要性もございしますが、財政事情もありまして、そう各部分ごとの要求を耳ざすことは困難でございます。

そういった面から内部で各部分の集りによって一つやもうひとつとめていくということに重点施策という点について多少そこに無理な面も起きてくるわけでございます。そういった面から、二カ年間は、一応今、計画は市として、基本的なものを持つておるわけでございますので、もちろん二年たちますれば、さらに一つ、基本線というものを当然張つてい

かなければならない。その重点としてあくまでも参考に
調査を活用したい。ただ、このことでも、もちろん診
断によつてすべてに決定づけらるゝわけではございま
せんけれども、あくまでも参考にしていく。そうして
議員の皆さん、審議会のおのゝうの方々の協力も
願ひ。この一つは長期計画というのと大げさになりま
すが、やはり年次的なものを二カ年後には立てて
いく必要がありそうです。今から、そういう面を診
断を受けて何とぬより良きものを作り上げていき
たいというところでお願いするわけでございます。

大学の先生めというお話でございますが、調査につ
きましても専門的、家庭的な各コンサルタントもござい
ますが、専門的なコンサルタントは非常に金取り主義になつ
てしまふ。今回も願ひします。先生方におきましても

すでに各市の状況等も見まわして経験の豊富な先生方だけでございます。それと市長会でも一応この方とというふうなや推薦をいただいております。また実際に調査をした各市の状況等も見せていただきまわりますが、非常にそれを市政面に活用しておるという事実、そういった点等から決まるところ調査、先生方もものを押し付けるといふ考え方でなく、要するに専門的立場からすれば各市の状況も大體全国的な共通の問題点というものが七割以上は占めておるわけでございますが、それらも覆の中において熊本市の持つ特殊事情というものもやはりつかんでいただくという面から今までの経験から、当市の財政の実態状況等も見まわした結果、決まらねばならないだろうということでは是非と

もやっていたのだと思います。

○一番(辻田実君)大休わやりました。今、説明にす
ますと、用意がなくて、私は不満であつたわけでござい
ますが、そういう面については、今後、調査の過程、また
承認決定、このうちにおいても、その前でも、結構で
ございしますが、十分現実、困つておる漁業、農業、さ
らには、観光、そういう面について、実際に苦しんでお
る人たちの意見を聞いて、我々の問題であるということ
でやつていただきたいことをお願いいたします。私の質問
を打ち切ります。

○二番(君塚幸三君)市勢振興調査、まことに結構であり
原案に賛成する者であります。その実施について
次のように私は考えるわけでございします。その点につい
て、執行部は、どのような考えになるか、お答え願ひ

たいと思ひます。こゝまでう市政について見るべきに
その振興策において、既存産業に対するうわづみ
的の振興策が主体をなしてゐる。地域偏重のさ
らいがあつたと思われ。そのことが所得の地域格
差の増大にますます追いつてゐる。このように考へる
わけであります。

所得の地域格差は是正。市民の所得の平均化
は、当然爲政者のなすべき責務である。この
さうな市勢診断も所得の地域格差の是正
といふことに基盤を置くべきであり、従つて低所得
地域の適正産業につきまゝでは、観光をも、含め
た振興策を打ち立てるべきであります。

一、総合開発計画。いきなりばつたりの計
画でなく、いわゆるマスタープランの中にはっきりこゝを

打ち出して着々と実現・完成に進むべきである。このように私は考えるわけであります。

ただ今の提案者の説明を聞きますと、この市勢振興調査なるものは既存産業のうわすめ的な振興策に帰するものではないかという気を感じて、ございます。この点について市執行部の所見をお伺いしたいと思うわけでございます。

企画室長(岩見茂生君)　ただ今、地域格差等の問題も総合調査の中において考えるべきだというお話もございます。が、地域格差という問題は、今始まったことではないと思います。

もうすでに過去から、そういったオ一次産業とオ二次産業、オ三次産業、当然格差というものは昔からあったと思います。この格差をなくするとい

うことは、おそらく私は不可能ではないかと思ひます。ただ縮めていくという施策は取らるうではないか。全国的立場から見れば、農業、漁業地帯と工業地帯では、工業地帯の方が所得ははるかに高い。従つて生活に迫られるということになりますと、所得の低いところから高いところへ人口が流れてつづくと、いうことも事実でございます。この格差ということはおくまでも縮めることはできさういふけれども、どこもかしこも同じということには考えらるません。それと同じように当市におきましても、いかに施策を取りましようとも、やはり産業の種類、その他内容によりましては、全部同じようにはいふことも不可能と思ひます。ただ農業は農業なりに所得をいかに増大さういふか、漁業は漁業でさういふか、ある程

度縮めていくということとは、施策によりましては、相当弾
力性が出てくるのではないか。こういうふうに見えてお
ります。なお、調査の中におきまして一応、ただ今
観光問題も出さなければいけません。一つの例でございま
すが、釧路市昨年七、八万からの客がきた。熱海あ
たりにおきましては、大体一人三千円から落していく。
当市におきましては、五百円位の金しか落さない
のではなからうかということをお耳にしております。

七、八万の客がきまして、三億五千万位の金しか
落さない。純利益というものがどの程度になりま
すかということをお考えの場合にすることに申しかけ
たいんですが、富士工場でもって現在一千万円の
市税を納めていたでござります。こういった従業
員の方々が或いは市内に住んで商店をうるおす

消費着となつてゐるわけでございます。

こういうことを考えた場合に工場や存在価値というものが非常に私は重要視されるのではないかと思います。

しかし観光は観光なりに将来伸ばし方によっては五百円が千円、あるいは千五百円、その施策によつては伸びていく弾力性を持っております。

そういう面から考え方を一まゝでただふたつと、こういうことで、産業との経済的関連問題、各部門ごとの存在価値とか、いろいろ内容を関連的にくわしいデーターにいたしまして経済効果を上げる事業というもののどういうところに阻害があるか、また経済効果ということを上上げる者であります。が、市民の幸福という面から考えたときに所得を増大

ばかりが幸福ではない。騒音、汚水の問題、その他いろいろな面にマイナスの面も出てくる。住宅団地でもできて住む人からいいますれば、工場をいどん持つてきたのでは住んでおられませんか。

静かに生活したいという場合もあるわけでございます。経済効果ばかりを期待するということも少しいさよざにひりひりないかという点もございますので、それと、いろいろ勘案いたしましていろんな面から市町村をながめていただいた上で一つ一つを完成したいということでございます。

・二二番(君塚喜三君)ただ今や説明にうすすと大分誤解をなさっておるというよりも、私疑問に感ずたんですが、所得の地域格差は是正ということ、は、又今う説明では、以前からいわれておること

であり所得の平均化ということではできないのだ。
 近づけることはできる。これは当り前のことであります。
 地域格差を是正しなさいということは当然に同じに
 所得を持っていかなければならぬということでも口を
 できるだけ、縮めるように持っていきたいということもいっ
 ておる。それと、双方向とも申しますように既存産業
 に対するうのずめの振興策、これはわりで口を、低
 所得地域で適正産業、低所得地域に果して、
 どうような産業が適ておるかという探求、こういう長
 ことに所得格差を是正するといふ基盤をそこに
 置いてそういつた問題に視点を置いていたに過ぎない。
 こういふことをいつた。そういつた。どうもただ今のやり方
 ではふに落ちないわけですが、こういうことでござい
 ますので、これをもって質問を打ち切ります。

・一三番(菊井敏博君)今までの説明を聞きますと、執行部においては、我々では自信がない。東京で構えたい人を頼む。重点施策を突き止めてもらうというように聞き取りをしておりますが、館山市に住んで五十年、六十年という有識者も多いと思うのであります。ところが、人々を除いて東京へえらい先生方、えらい先生方ではおられないので、例えば観光部内におきまして、どこか市でどういう面でお笑いがあつたかということと一例でもよろしいのであげてもらいたいと思う。

・企画室長(谷本茂生君)大体予定して、交渉をお願いしてあります。先生方、観光部内につきましても、産業大、清水博士でございします。

銚子におきましては、やはり産業振興策という面の

質面が主でございしますが、一応表題は市政振興ということとで診断を受けたのでございします。

その内容を簡単に申し上げますと、大体銚子におきまゝでは、今まで観光面の考え方としては、今までは、漁業の町として伸びてきた。観光的な立場から、診断をいたしました内容を見ますと、今度銚子大橋ができた。これは非常にプラスになる。これはあくまでも観光的に活用しなければならぬ。銚子には、愛宕山でございまして、少し高い山がございします。あの山も観光の中心的存在として伸びていく。怒涛の如く奇岩絶壁の景勝地というもうま高度に生かして展望台的になめる場所をもう少し強かに進める。それから銚子うた端にありまします山を中心にしてタワー的なものを作る。

一望のうちに広く景勝地がながめられる。これを要するに観光の中心地なものにして伸ばしていく。それから、今後野水池ができれば、海岸のいろいろな奇岩絶壁をながめながら、その野水池をいろいろな観光的に施設を加えておけば、非常に変化に富んだ海岸から数キロまで平和で非常に静かな水源池の景色というものがながめられる。いうことは、都人種にとって非常にほかで見られないような観光資源であるということと、海岸を別荘地帯、或いはいろいろな施設によって娯楽施設を設ける場所と地域的に一応こういうことであるから、このところはこうしなければならぬ。という地域的に赤裸々な見解が述べられておるわけでございます。

町は漁師町であつたために、魚のにおいでいっぱいである
観光地ということになれば、町を思い切つて美化して
いかなければならぬ。漁業の方面について、そういつた
ものを関連してやつていかなければ、致命傷になると
いうことと、都会の人たちは旅行をする場合に現在
住んでいる環境から、全然かわつた環境にいくという
ことが望ましい。遠くてもいけない。近くてもいけない
観光地にいろんな施策を講ずれば、鮎子は伸びる
だろう。私も至らない説明ではございますが、こ
ういうことでございます。

一三番（菰井敏博君）よくわかりました。地元の有機
着々中にも相当な発展者もあると思ひますので、そ
ういう人の意見をも入れて、たところ、調査団というも
のドームにしたいと思ひます。

・三番(安藤竜吉君)この問題に直接的関係はございませんが、関連性を有するもので発言を許していただきます。この問題は非常に遠大な計画で実現するうは、めなりの目数があると思っております。

私と考えでは、当面の問題をどうするか。この問題につきましても、市長さんにお伺いしたいのです。市長さんの「十万人都市建設」これは、まことに結構で我々喜んで賛成してゐる者であります。この建設計画の具体的な動向ということに思いをいたすときに先ほども問題になりました。第一番に困難をきたしてゐるのに、宅地の造成ではなからうかと思ひます。最近のように観光ブームによつて都入士が入つてきて宅地を求めようとしてもなかなかないので、やむを得ず、農地転法による。そのときに農地法に適用されて、これ

が、できるものが困難をきたす。その他、熊本市周辺
等からいろいろ考えて見ましても、まず、人口をふやす
ために、宅地の造成が専決問題ではなかろうか。
かように考えますので、熊本市には、昭和二十八年
までに、都市計画条例があらったのであります。最
近ないようになっていますが、一日も早く都市計画条
例を復活するお考えがあるかどうか。

私は早く復活さしていただいて、さうして指定地域を
指定して宅地造成を盛んならうめることにはまず人口
をふやす。専決問題ではなかろうか。かように考えます。
都市計画条例を復活するお考えがあるかどうかお
答え願います。

・市長（本間謙君）都市計画条例につきましても、ま
だよく検討してありますから、検討してまいってお答えします。

それから、熊本市、今、工場誘致にいても、住宅誘致にいても基本になることは、水資源です。これが専決でありまして、現在水資源調査をやっておりまして、大体、その結論が出ると思いますが、中間報告ですが、大体人口十万人に対する水がある。こういう格でございまして、まず、水から水の確保がなくては、住宅誘致も工場誘致もなかなか困難だと思ひますので、近く結論が出ますので、それに付いて、まず、那古地区の住民は水に非常に困つておりますから、この水に対して検討して、そうして水資源が確保できれば、住宅問題につきましても、工場誘致の問題につきましても手が付けられると思ひます。

・三々番(安藤竜吉君)わかりました。そこで現在あります企業誘致条例、これが遺憾ながら、せつやくで

きでおります。この条例がほとんど死文に等しい。
活躍して欲しいということとであります。

市長さんの申しさしより大通り水々確保ができていないとい
うこと、いま一つは土地の確保ができていないということ。
これらの悪条件があるためだと思っております。そこで、こ
の市の市勢振興調査と合わせまして、是非、誘致
条例の活発な活動うでるようになり、また都市計画
も一日も早く実現いたしまして、宅地造成に拍車を
かけていただきたいということが私の念願でございます。
そこで解いたしまして。

議長（黒川佐太郎君）本日は討論者略原案通り可
決いたしますことに中々異議ございませんか。

（異議なしと呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）中々異議なしと認めます。

よつて本案は原案通り決定いたしました。
日程才ニ議案才ハ十三号、

(書記朗読)

議案才ハ十三号

館山市助役選任につき、議会の同意を求めるについて、

(市長 本間 謙君 登壇)

・市長(本間 謙君) 皆さん、本案のやうに小出助役が本
月末をもちこして、任期满了するものでありまして
いろいろ選挙してござりますが、また市会議員の方
々、外部の方々、いろんな方々の中意見も伺つたわけ
でございます。また自分とて、小出助役が適任
と考え、こゝで本會提案にわけでございまして、よろ
しく御審議のほどをお願い申し上げます。

・議長(黒川 佐太郎君) 本案は質疑、討論を省略いた

一ヨ一で原案通り可決することに中々議ありま
せんか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中々議なしと認めます。よって
本案は原案通り決定いたしました。

日程才三議案才ハ十四号を上程いたします。

(書記朗読)

議案才ハ十四号

千葉県市町村取資退取手当組

合加入にふるそ及納付金う納入につて

・秘書課長(小倉澄男君)議案才ハ十四号につまよ一々

中々説明申し上げます。

こよは退取手当組合に加入いたしますに際一ま一々

昭和三〇年からのかまきか上りま一で掛金を納める

ことにつまよして非常に金額が多額にかかります

もので、退取手当組合と交渉いたしまして結果、五年で償還をするというところをお願いいたしました。

三十年からの取資、給与の計算を終りまして、先般退取手当組合よりこの上程いたしました金額のもうを五カ年間にわたり十回払いの本賦償還で支払っていたのださうという通知が参りましたので、これは予算外、義務負担でございますので、自強法、九十六条に基づいて、議会の承認をいなければならないと思います。提案した次でございします。なお、年賦償還の方法は、起債等について行なわれております償還方法と同じでございます。同題を十回に引き上げることになっております。利率は年五厘をもって計算をいたしたいと考えております。

・二五番(藤生田七郎君) 実際問題として実質が退取し
た場合に市は市独自の立場で退取手当を支給す
るのか。その他にこれを支給するのめ。それとも一
定の市の算定に基いて退取金のうち、これら支
給されるものの残額を支給するのめ。

・批書課長(小倉登男君) 中説明いたします。これは
自治法に規定されております。市が行ないます。
退取手当を支給する。これを一部事務組合と組
織いたしまして、市になりかわりまして代行する。

一部事務組合に市が加入したということであり
ます。市がこれには、退取手当は支給い
たしません。この一本で参るということでございます。

・三五番(松本藤太郎君) 私聞き齟らしたかどうかわり
ませんが、千七百四十万二千九百八十円というのを

十回の月賦で払うということですが、これはいつからいつまでかであるか、それから現年度三十八年度からは毎年これ以外に納める金もあると思いますので、その金額を教えていただきたい。

・秘書課長(小倉澄男君)お答えいたします。これは昭和三十一年に借取手当組合が十一月に結成され、その後昭和三十一年から昭和三十八年の三月三十一日までの現在、館山市にありまする取員に支給されるリースリース月給に対する掛金でございまして、これは千分の六十をさらに八割の額でございまして、このほか、館山市は四月から取員に支給されます月給の六%を毎月借取手当組合に支払うという事になります。

・三五番(松本藤太郎君)そうしますと、三十一年の十一月

から本年の三月三十一日までのかき月賦で返すもの
 現年度は別に納めていく。こういうことでございますが
 現在、取算が返取する場合に三十年のかからの
 の返取金ももらえるのか。実際にやめる人は二十年
 から勤務しておる人が今年やめても三十年十一月
 から掛金ですが、それ以前の勤務についての返取
 金ももらえるのか。

・秘書課長（か倉澄男君）ただいま申し出ていただきまーに通
 り就取の年月のもうからいたいただきます。

・議長（黒川佐太郎君）おはかりいたします。本案は討論
 省略原案通り可決するにや異議ありきせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（黒川佐太郎君）や異議なしと認めます。よって本
 案は原案通り可決いたしまーた。

日程才四議案才ハナ十五号を上程いたします。

(書記朗読)

議案才ハナ十五号、農業委員会委員と口るべき学

識経験者、推薦について

(三二番議員 三沢節君登壇)

・三二番(三沢節君)にたいし議題とわけております農業
委員会委員推薦について、議案に對しよろしく提
案者を代表いたしまして説明いたします。

お手元に配付の印刷物の通り、和田金次、仲村孝
の両氏を最適任者と認めて推薦いたしたいと
思いますので、満場、や賛成を賜わりますように
お願いいたします。提案の説明といたします。採決

・二番(鈴木正一郎君)議案才ハナ十五号に對しよろしく、私は
反対する者ではございませんが、賛成をいたします。

中賛同いたしなと思います。

農業委員会の定員が現在十五名というふうになつてゐるようでございますが、先ほど私西畑の現地の状況におきまして、定員が一五ということでございます。さらに手薄なところにぜひともお願いしたいということをお願い申し上げますが、諸般の事情から大体、このように決定されたことと思いますが、すが、この定員がきつらくなるのは、いつのことか私もよく知りませんが、その当時の状態から、考えますと、現在の西畑の状態というものは、相当変化して参つてゐると思います。その点、近き将来、定員を十六名にすることゝが、できないうで、ございませうか。このことについてお伺いしたいと思います。

・農産統計課長(伊藤幸太郎君)私の方からお答え

いたします。現在十五名という定数条例が定めて
あります。将来定数の改正につきましては、かえらる
べきものではございませうので、ここでもかえる、かえないと
いうことにつきましては、申し上げたいと思います。

・二番（鈴木正一郎君）定数を一名増加していただきたい。

・一番（吉田勇治郎君）本案について二番議員の説明によつて
補正したいと思ひますが、議会推薦の本案につい
ては、賛成であるけれども、今後いろいろ地区内にも様
相が変わつてきてあります。この議会推薦の数を
一名ふやしていただく配慮がほしいという趣旨だと思
ひますので、その点のや答弁を願ひたい。

・農産統計課長（伊藤幸太郎君）議会推薦により
ます数は別にきまつてあります。

今までの慣例から二名ということではございます。

前日も前々回もやっておりますので、議会自体も考え
方として二名ということに推薦願ったのではないかというこ
とでございます。

・二番(鈴木正一郎君)ただいま、慣例という言葉がまたいで、
ございしますが、協議会も慣例ではいけないという話
でございますが、西岬の状態が変わってきたというのは
慣例ではないのであります。現実の問題として必要
なことを申し上げておる。ですから努めてこれは、現地の
要望に合うように中心配願したいと思っております。

・農産統計課長(伊藤幸太郎君)ただいまう点ござ
います。私からはどうもいいにくいわけでございます
けれども、法律的にいきますと五名以内ということ
でございます。農業委員の全体の数というも
うがあらじめ関係者によります内規的な意味

できめられてゐるわけでございますので、従来はこう
線にそつて二名というこゝで推薦願つてゐたわけで
ございますが、今後う問題といひしまゝでは、こゝを反
りに三名にするか、四名にするか、こゝは協議の結果
果にわかるわけでございます。

・議長(黒川佐太郎君)本案は討論者略原案通り
可決することに仰り異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)仰り異議なしと認めます。よつて
本案は原案通り決まらう。

日程才五、請願書と上程いたします。

(書記朗読)

(二三番議員、中村省吾君登壇)(拍手)

・二三番(中村省吾君)ただいま提案のイ、エ、フに掲示綱要

勸組合から申請願書につきまゝで、紹介議員と
一々一応の説明申し上げたいと思います。

そもそも揚藻網組合、このことが館山市におきまゝで
漁業の重大な産業である。館山市における一番
大事な漁業であるということがいえると思います。

その漁業に携わっておる揚藻網組合の方々が、
現在、京葉工業地帯造成ということでは理を立ててが
実施されております。この理を立ててくださる
もって直接的被害を受ける方たちはいい。

地先権として、その相当の補償を受けて、現在おる
わけでございます。ところが、船形揚藻網組合に
おきまゝでは、いわゆる漁業権許可制ということ
で、地先権というものを何ら持ち合ひておりません。
従つてこの点についての直接的補償対象として、

国から見られないのでございします。

その結果、何ら補償も受けず、かつまた一番肉題となるものが、埋め立てによりまして魚族の繁殖が減ってきたわけでございます。いわゆる浅海に対しまして従来プランクトンの発生がよつてそこに稚魚が繁殖してきた。そのことが、不能になってきた。

これが才一点、なほ埋め立てによりまして潮流の変更によりましていわゆる二月頃から、鎌山湾沖を通りまして逐次、秋にかけて北上しまして東京湾を回つて神奈川県、そして南下する。こういう形のことで、操業をいたしてゐたわけでございますが、いふらう魚がいりゆる木更津以北には、いりなくなつてしまつた。こういう現実が生じたわけでございます。従いまして従来、東京湾を唯一の漁場としてや

まーたところの揚録網にまきまーては、漁場をなくく、
 まったという事実と遭遇にわけでございます。

こゝろ中から、今後煙を立てて完成さしまーたあめ
 つまには、現在揚録網が一統百右とまーて、現在
 の統数で六百、それに伴う家族数というのと相当な
 もつになるわけでございますが、こゝろの方たちになん
 ーま生活まーていくか、こゝろの現実の問題に對突
 き當っているのであります。こゝろの問題を考へまーま
 四項目の請願書をこゝにお願ひになつてございます。
 たいてい交渉をすれば、あなた方には、補償権はな
 先ほど申し上げまーたような地先権というものがな
 單に許可産業であるということでございますので、
 直接約被害の對象にならないうことと、突きはな
 さいる。こゝろしながら、現実的には、私がただいま申し

上げまーにように大きな漁場を失なつてしまつたといふこと
とて水揚げ、それもその減少を来にまゐるでございませう、
そう一々中から、いろいろの減額を来にまゐるでございませう、
ように、すでにこのことに対しては、揚葉業者として
まーでは、一体となりまーして、昭和三十三年から、大回
に及んで正式な陳情、請願を県に対して行なつて
きたのでございませう、これに対しては、何ら今まで
めつて、具体的な措置がなされておらないのでござい
ます。なおかつ、館山市にとりまーしても、当然、館
山市の大きな漁業である揚葉鋼に対してまーして、従来
の市政の中から、これに対する対策というものが、何ら
私は、ほどこされておらないかといえると思ひます。
いろいろ積極的にこれからの京葉工業地帯の造成
に伴つて、今度揚葉鋼がいかにして生きていくべきか

この点に対する対策を考えた施策が講ぜられ
たが、これだけ大きな問題であろうと存ずるのであ
ります。従いまして、こういった観点からやむにやま
ず、この請願をなすに至ったのであります。いわゆる
この請願の中で率直に申し上げていろいろ問題
があらうかというような声も聞いております。一か
つながら、こういふわけは生じていけないのだ、食っていけ
ないのだということも、率直に述べたのが、この請願
でございます。

いわゆる神奈川、静岡県、入漁にいたしましても、
海区調整、漁業問題として大きな問題だと思ひます。
たゞ入漁の問題として一本釣り等々、関連もある
ことは当然でございます。一かし、その困難はわか
つていても、今後、そういふわけには生じていけないという

ところに問題があろうと思います。

卑近なことを申し上げまして私たちがいかに法律で
規制されておるといっても皆さん方自身が身をもって
経験されておるうぬと思ひます。が、食養生で禁じ
らねばやみ米を買ふなといひても食ひなければい
けない。皆さん方はやみ米を買つておる。そういうふう
に進いつめらねば何とんでも食ひなければならぬ
のであります。揚穀類もそのような立場におき
まして神奈川に入漁にいたしましても、たき入りの
問題にしても、大きな問題があるといふことはわか
ておる。わかつておるが、それをしていなければならぬ
ないやだ。こういうことがこの講義の骨子をなして
おるものでございます。もう一冊点申し上げますな
らば、海産調整委員の中でも私は専門でない

でござりません。が、神奈川の対湾を一例にとり
 コーでも、川崎沖、東京都の境、本牧沖、さらに
 横須賀、観音崎から、川崎、これを見通した、いわゆ
 る川崎から、川崎まで、対岸一体というものは神
 奈川県によつて入漁禁止をきいておるのでございます。
 一かゝる千葉県におきましては、何らこれの入漁禁止
 はないであります。

従つて他県の業者というものは千葉県に進出しま
 ております。漁場がなくなつた上になおかつ、神奈川
 県一番の好漁地である、横須賀沖とか、そういうところ
 に入らない。そういうことがいりゆる千葉県におきまし
 て、この網業者に対する真剣な施策といえるかとい
 うか、この点も合せてお考え願いたいと存する
 のでございます。

従つてこのようにいひゆる現在、法律がこうだから、今
禁止されてゐるからということではなく、現実、に今、揚葉網
業者の方たちが、このように思ふ、米をどうするかと
いう途、炭、若、みをしてゐる。これに對して生きた施
策を講ずることこそ、真、政治であらうと存ずるの
であります。

このやうな意味におきまして、議員講、使、格別なる
中、理解にすりまゝして、中、賛同を得たいと存ずる次
才でございます。簡單ですが、説明といひます。

・三二番(三、二、節、若)この際、動議を提出したいと思
ひます。ただいま、議題となつております、請願書につ

きましては、ただいま、紹介議員、中、説明にもあり
まゝ、このやうに、京葉工業地帯、造成に伴つて、館山、橋
、埋め立てのために、揚葉業者組合員が生活に大きな

影響を及ぼしておる。お灸の毒な状況にあるということには十分に察知できるところであります。一かしの問題にせよ、慎重に審査を行なうべきものであらうかと考えます。従いまして、際所當の経済委員会に付託せらるゝて特に内会中、慎重なる審査を実施せらるゝよう、ここに議会運営協議会を代表して動議を提出いたします。

議長（黒川佐太郎君）ただ今三二番議員君より本請願書は経済委員会において特に内会中、審査を付託したいという動議が提出せられました。

おはかりいたします。二かしの問題ありませんか。

二三番（中村有吾君）委員会付託は異議ないのでございしますが、いわゆる私が申し上げましたように、揚梁鋼の現状というものが非常に困つておる。従つて

早速に何らかう具体策を打たなければならぬという
現実の当面しております。

慎重審議を委員会ですることはもつとも望ましく
のでございますけれども、その結論がぬない間、放置
されて置くかどうかという問題が一点ございます。

従って四項目においていろいろ問題があらうかと思ひます。
そういった点を慎重審議するのは結構でございますけれども、
どうもはつきりいうならば才四項目にあるようなものは請
願の趣旨にぬれられず、当然の義務として市当局
がやっていたべくべきが……

議長(黒川左太郎君)議事の途中ですから、ただいまの動
議に対することをおはかりしたあとで承わりたいと思ひ
ます。

二三番(中村省吾君)その点はわかりませんが、そういう点があつ

よりすれば私は委員会付託も結構だ。

結論になりますところはそのういふことは、委員会でご審議しているから、その間は放置して置くのだということになります。問題はあります。

・議長(黒川佐太郎君)おはかりいたします。

ただいまの動議に決案ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)決案ありと認めます。よって本請願書は経済委員会において内会中審査と決定いたします。

二三番議員に対するお答えを願います。

・市長(本間譲君)市の方でどういふふうにかかっているかという事です。

・二三番(中村者吾君)市が四項目について委員会に付

託してしまつてどうしろという決議は出ていない。審議
中だ。従つて田々中には市の取るべき態度というもの
もある。これにこだわらずに市政の中から日常の施策
として、当然の結果として揚梁網の問題を講じて
いたいただきたい。こういう要望でございます。

委員中では審議中であるからこれに對しては、ノーコメント
だというような態度では困るということをお願い上げてお
る。

・市長(本町譲君) このことにつきましては、先般融資する
道を利用して援助したわけでございますが、その他、この中
にありません。いろいろの点につきましても、渠の方とも話
し合ひをして協力したい。こういうふうな思つております。
・議長(黒川佐太郎君) 本臨時会の議事は事件全部
議了されました。

よつて臨時会を閉会いたします。

午後六時五十六分

閉会

本日の会議に付いた事件

一 議事日程に同じ

出席議員

吉岡勇治郎

鈴木正一郎

小柴 孝

館石伝蔵

田中禄郎

秋山大三郎

田村源治郎

望月照正

安西益男

辻田 実

石井 正

黒川佐太郎

菊井致博 志村信作

小沢恵太郎 関 武夫

飯田義男 西村真次

藤田好治 保科忠夫

江田徳太郎 君塚喜三

中村省吾 荻生田七郎

鈴木孝 嶋田 繁

山田敬宇 鈴木市蔵

安藤高吉 安沢徳順

三沢 節 高橋文治

山本 昇 松本藤太郎

山口 康

大席議員

島野茂樹郎

昭和三十一年七月二十三日

右会議の次第を録し、ここに署名す。

熊本市議会議長 黒川修吉

同 署名議員 山本 邦

同 署名議員 小栗 孝

